

E034 御殿場泥流の露頭・清住緑地(静岡県GEO
DATA(25)特集：地学散歩(104))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029287

E034 御殿場泥流の露頭・清住緑地



カシミール3D地図

約 2900 年前，富士火山の東斜面が大崩壊し，大量の土石が現在の御殿場市域に堆積した。「御殿場岩屑なだれ」と呼ばれる。

この堆積物はその後 200～300 年間に，何回も土石流となり周辺地域に流下した。「御殿場泥流」と呼ばれる。箱根山と愛鷹山に挟まれた黄瀬川谷を流下した土石流は，裾野市・三島市・長泉町・清水町を埋め立て，沼津市や函南町にまで到達し，地表面直下に堆積している。

御殿場泥流の分布範囲は広いが，観察できる露頭の数は少ない。

清住緑地は，伊豆と駿河の国境であった境川の谷底にあり，年間を通して湧水が観察できる親水公園として整備され，周辺住民の憩いの場となっている。

境川の刻んだ崖線には御殿場泥流層の露頭が多数あったが宅地化が進み，コンクリートで護岸され，観察適地は当地だけである。

高さ約 4 m の露頭は，中央に砂層を挟み 2 層に分かれている。下部の礫層は比較的粒径がそろい，河川堆積物の特徴を示している。上部層には 50～100 cm の亜角礫が不規則に入り，土石流の特徴をよく表している。清住緑地南側の丸池は，戦国時代に作られたため，泥流中の大石が残され，庭石のように散在している。

(増島 淳)